

被災地を想い、共に寄りそうこととは？

2011年におきた東日本大震災から6年1ヶ月が経ちました。ニュースを見ていると、その時学校に入学した児童や卒業した学生たちが次の目標に向かってたくましく生きている姿がありました。地震によって絶望の淵にある時、多くの人々は救いたいと募金活動や支援物資を送る活動に参加しました。しかし、熱しやすく冷めやすい支援は被災者の目にどう映るのでしょうか。6年が経過した今後も、被災者の方々に寄りそうためには、復興の現状と、課題について知ることが大切なことです。そのための一助として、今年度も「轍」を発行していきます。投稿は大歓迎です。

気持ちに寄り添う言動を！



今村雅弘 復興大臣の4月4日での会見発言を知っていますか？

福島第一原子力発電所の事故により今も帰れない自主避難者への対応について、「(帰れないのは) 本人の責任。(不服なら) 裁判でも何でもやればよい」と記者に言い放ち、その後陳謝したものの、復興に責任を持つ大臣としての発言に、被災者たちはどんな気持ちになったのでしょうか。このようなニュースの裏で、今日も原子力発電所の事故処理に関わる人たちの働きがあまり世の表に知らされていないことも残念です。



キリスト教の教えの基に

4月14日、熊本大震災が発生して1年が経とうとしています。思い出すと、直接死で50人、梅雨による土砂災害で5人が亡くなりました。関連死を含むと157人に上りました。その後心の病気も増えていると聞きます。キリスト教の教義には「隣人愛」が説かれています。今回の紙面(裏)には熊本県に行った先生の体験談を載せました。隣人のように遠く離れた被災地の方々に想い、共に寄りそうために自分に何ができるか改めて考えてみたいと思います。

愛のある支援、ゆるく長く

第6代 実行委員長 清水 聖

私はこの学校に来て今年で7年目になります。震災は小学校の6年生の卒業式の直前でした。悲しいことの数々が連日ニュースで知らされ、悲しみが大きくなるばかりでした。しかし自分一人の力では何もできないと思っていた矢先に先輩が作られた実行委員会を知り、そこで支援していきたいと思い、今に至ります。震災から6年、あの時思った事がみんなあったはずですが、世の中では支援の気持ちも薄れています。しかし、復興には長い時間がかかり、たくさんの人の力が必要です。私はできるだけ多くの人に希望を持って欲しいと思うので、みんなで「愛のある、そしてゆるく長い」支援でいいと思うのです。

副委員長 上尾 紗矢・中学責任者 立入 麻羽 精一杯委員長のことをサポートしたいと思います。皆さんや私たちの思いが少しでもひさいとのみなさんに伝わるように頑張ります。よろしくお願ひします。

震災から1年：熊本県のいま

昨年4月14日の夜に発生した「熊本大震災」からおよそ1年が経ちました。「東日本大震災」となれば、今もなお、復興事業に多くの課題が残されている地域ですが、ニュースでもなかなか見えにくい様子があります。今回、中学3年生の実行委員、立入さんと松川さんが1月に熊本を訪問した木佐貫功先生（美術科教員）に現地の状況をインタビューしました。

（立入・松川）木佐貫先生はどうして熊本を訪れたのですか。

（木佐貫先生）冬休みの研修会が1月8・9日の2日間行われていて、一番揺れが大きかった熊本県の益城町を訪れました。自分の目で状況を確認できなかったのが理由です。

（立入・松川）熊本県の被災地はどのような状況でしたか。

（木佐貫先生）市街地はすでに電車が運行されていました。しかし、益城町までにつながる一本道はずっとひび割れの状態でした。聞くところによると、修繕にかかる人件費は通常の5倍、資材費は3倍もかかるといわれているようです。



町の奥に進んでいくほど、損傷が激しくひどい状態でした。山肌が切り崩されて、木や竹がひどく傾いているようでした。有名な熊本城も報道にあったとおりのままでした。修復はまだ開始されておらず、無惨に崩れている箇所もありましたが、夜にはライトアップされてその雄姿が見えるようです。

訪問中、熊本県のキリスト教系の私立学校である「九州学院中学校高等学校」と「ルーテル学院中学校高等学校」の先生方と交流をしました。九州学院の校舎は震災により全面使用不可になり、新しく建設した校舎でさえもガラスの部分が割れてなくなったそうです。



益城町の様子



（立入・松川）被災地の支援に向けて、私たち実行委員は何ができると思いますか。

（木佐貫先生）今回訪問して、熊本の学校ともっと交流を深めていくことだと感じました。

例えば、交流できた「九州学院」や「ルーテル学院」の生徒や先生と委員会がつながって、被災者のニーズと気持ちを読み取ることができるのではないかと。交流をすることで現地の声（本当に手元になくて困っている状況）に触ると、支援物資に何を送るべきか、わかってくるのではないかと思います。

（立入・松川）ありがとうございました。学校とのつながりも考えていきます。